



55

~13  
1961  
55



根  
各  
州  
筆  
荷

呂  
力  
平  
工

55  
遠  
1961  
25

三心  
 三心  
 三心  
 三心  
 三心

山  
 山

言て全  
 まの傍に一偏の童子は一日書す乃り下りて精を削りて  
 無常地獄にあり耶余對て曰冷ガ一念ふあゝ水なりありハ寒地獄火なりハ  
 熱地獄曰からハ寒地獄刀山地獄の異物三昧ニ迷ハルハ冷ガ念  
 亦の石投ハ地獄の友言覺畜生道の六つは買食ハ是餓鬼乃之  
 鬼乃之乃ハ此鬼我ト我即呵責トて 汝がろふ乃ハ而凡て地獄  
 此あり乃ハ我の乃ハ 苟も父母乃ハ我素見乃の苦痛を以  
 殺ハサシ本乃の經又讀を忘れ 算豆の玉乃の珠を以  
 善念を為乃の時ハ長て即極樂あり。是地獄極樂乃  
 今幸ハ此箇の得史あり。我今ハ極樂ハ 羅漢を以  
 公正ハ此ハ如是惡念の乃ハ違ハレ悪念  
 念ハれハ惡念トて善念トナル。原是小法トハ此ハ迷悟の乃ハ  
 海ハ是に得乃所ありハ善念ハ此ハ袖ハ此ハ唯ハ此トて退ハ

寛政、甲寅春  
 於紙兒烟包舖  
 山東京傳叙

























あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
天の宮にさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして

あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして



あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして

あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして  
あんなまはりのいふまゝに  
うらやまにさうして





此の九曜の世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては

六道の辻

あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては



あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては

あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては



あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては  
あまのたまの世にありては





天竺  
 佛  
 十  
 一  
 佛  
 經  
 卷  
 之  
 一  
 經  
 師



京傳作



